

安全データシート

改訂日：2025年1月14日

1. 化学品及び会社情報

製品名	炭酸水素ナトリウム
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	CB1870

2. 危険有害性の要約

GHS分類	急性毒性(経口): 区分5 (UN)
健康に対する有害性	—
ラベル要素	警告
絵表示又はシンボル	飲込むと有害のおそれ
注意喚起語	【応急措置】 気分が悪い時は医師に連絡すること。
危険有害性情報	【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
注意書き	腐食性があり、眼や皮膚についた場合、軽い刺激を受けることがある。
GHS分類区分に該当しない他の危険有害性	

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	炭酸水素ナトリウム
別名	重炭酸ナトリウム、重曹
化学式	NaHCO ₃
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 144-55-8
濃度又は濃度範囲(含有率)	99%以上
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(1)-164/公表
危険有害成分	該当情報なし。
その他	HSコード: 2836.30

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗うこと。 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズをしていて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、泡消火薬剤、粉末消火薬剤、炭酸ガス、乾燥砂類。
使ってはならない消火剤	棒状注水。
特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して腐食性、毒性の煙霧を発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には、適切な保護具を着用すること。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 風上から作業して、風下の人を退避させる。 環境中に放出してはならない。
環境に対する注意事項	漏洩物を掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
二次災害の防止策	

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	技術的対策:『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	局所排気・全体換気:『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
接触回避	粉じんを吸入しないこと。
衛生対策	酸化剤、強酸との接触を避ける。
保管	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
安全な保管条件	取扱い後は手などをよく洗うこと。
安全な容器包装材料	湿気と熱を避ける。
	容器を密閉し、涼しく換気の良いところに保管する。
	ポリプロピレン
8. 暴露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
濃度基準値	8時間: 未設定
	短時間: 未設定
設備対策	局所排気装置を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器用保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護手袋、保護衣、保護面を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶性粉末
色	白色
臭い	無臭
融点/凝固点	該当情報なし。
沸点又は初留点及び沸点範囲	該当情報なし。
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	不燃性
自然発火温度	不燃性
分解温度	50℃以上で分解する。
pH	8.0～8.6(1%水溶液)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	100gの水に対する溶解度(温度) 6.9g(0℃) 9.6(20℃) 16.5g(60℃)
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	2.159(20℃)
粒子特性	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
化学的安定性	常温では安定。加熱により炭酸ガスを放出し炭酸ナトリウムとなる。
危険有害反応可能性	水溶液は弱アルカリ性である。
	酸と激しく反応する。
避けるべき条件	加熱、酸との混合。
混触危険物質	酸と激しく反応する。
危険有害な分解生成物	炭酸ナトリウム
11. 有害性情報	
急性毒性	経口: LD50 ラット 4220mg/kgのデータがあり、区分5(UN)とした。(JISでは区分外)
	経皮: ラットのLD50値として、> 2,000 mg/kg の報告(農薬工業会(1996))に基づき、区分外とした。
	吸入: GHSの定義における固体である。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いたテストガイドラインに準拠した試験において極めて軽度の刺激(皮膚一次刺激性スコア=0.3)との結果(SIDS(2004))に基づき区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		SIDS (2004)に5例のデータが報告されており、信頼性の高いEPA TSCA ガイドラインに準拠した試験で24時間後のスコア値 (MMTS) が8.3(わずかな刺激性)との報告があることから区分外とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データ不足のため分類できない。
生殖毒性		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		経口経路の報告は全てガイダンスの範囲外(3,000-9,000 mg/kg)の用量を投与した試験であり、自発運動の抑制、歩行失調、浅呼吸など一時的な症状がみられたが後に回復している(SIDS (2004)、農薬工業会(1996))。なお、ラットの吸入ばく露(ミスト)においては、ガイダンスの上限近傍の濃度(4.74 mg/L)で、一時的な運動抑制、円背位、流涙、鼻汁がみられたが回復性であった。経皮経路においては、ラットにガイダンスの範囲の最高用量(2,000 mg/kg)の原体をばく露した試験において死亡及び毒性症状はみられなかったとの記載がある(農薬工業会(1996))。以上の結果から区分外とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)		SIDS (2004)に本物質は米国食品医薬品局(FDA)ではGRAS(Generally Recognized As Safe)物質に認定されていることが記述されており、経口経路では区分外相当と考えられるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。
誤えん有害性		データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期: (急性)	甲殻類(ニセネコゼミジンコ)の48時間EC50 = 1020 mg/L(SIDS, 2004)、魚類(ニジマス)の96時間LC50 = 7700 mg/L(SIDS, 2004)から区分外とした。
	長期: (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC(繁殖、生存) > 576 mg/L(SIDS, 2004)であることから、区分外となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、魚類(ニジマス)の96時間LC50 = 7700 mg/L(SIDS, 2004)であることから、区分外となる。 以上の結果から、区分外とした。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国際規制		該当しない。
国連番号		該当しない。
品名(国連輸送名)		該当しない。
国連分類		該当しない。
容器等級		該当しない。
国内規制		該当法規制特定できず。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
応急措置指針番号		該当しない。
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物に該当しない。
消防法		危険物に該当しない。
16. その他の情報		
参考文献		17423の化学商品(化学工業日報社) 記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。